

経営理念 「みんなの『今』を幸せにする学校」
 めざす学校像 リスペクトするワクワク感にあふれた学校
 めざす生徒像 リスペクト:自分の気持ちを大切に、他者の思いや願いを想像する生徒
 ワクワク:正解のない問いに、他者と協働しながら最適解をみつけていく生徒
 行動目標:「やってみよう」「ありがとう」「なんとかなる」「ありのままに」
 教育課題 学ぶ側の論理からの問い直し～学校に生徒の「やりたいこと」はあるのか～

1. 研究テーマ 「子どもの今を感じとる先生とは ～リスペクトするワクワク感にあふれた学校・生徒を目指して～」

(1)テーマ設定について

本校では、「学ぶ側の論理からの問い直し～学校に生徒の『やりたいこと』はあるのか～」を教育課題として、授業改善に取り組んでいる。昨年度は、教育課程研究協議会の総合的な学習の時間の授業公開を行うとともに、「子どもの今を感じとる先生プロジェクト」として、生徒とのかかわりについて先生同士で思いを共有する機会を設けた。授業改善を図る中で、つい先回りしてしまう指導や、生徒を枠にあてはめてしまうことへの戸惑いなど、先生たちの、日々感じている指導の悩みなどを知ることができた。今年度は、そういった声をもとに、先生たちの子ども観や指導観を改めて問い直し、「子どもの今」をどう感じ、受けとめ、学ぶ側の思いをどのように学びに生かしていくかを研究テーマとした。

2. 「子どもの今を感じとる先生」に向けた研究の内容

(1)岩川直樹先生からご指導いただいたこと(8月)

【岩川直樹先生からのご助言①教師のありかた】

- ・“枠”や従来の価値観を突破し、子どもの思いに応えること
- ・教師は、子どもの目の前の「今」だけではなく、背景や経緯を理解し、伴走者としてかかわること
- ・あと30cm、その子に関心を向けようとすると、その子にできることが見えてくる、その子の思いに応えたいくなる
- ・教師同士が子どものことや自分の思いを語り合う時間が、学校の土台になる

岩川先生に各学級の生徒の様子を参観していただき、子どもをみる時の心持ちなど教師のありかたを教えていただいた。その中で、これまでの松代中学校では、教師同士で生徒のことを語り合ったり、思いを分かち合ったりする機会が少なかったことを踏まえ、学校の土台づくりとして、先生同士の生徒の姿を語る場を設けることにした。

(2)子どもの姿を語ろうサロン(9月)

岩川先生のご指導を受けて、先生自身がこれまでの子ども観や指導観を問い返し、生徒のことを先生同士で語り合う(分かち合う)時間を設定した。

「子どもの姿を語ろうサロン」と称し、担任がリストアップした「より深く理解したい生徒」を中心に先生たちで様々な授業の参観を行い、生徒たちの様子を語り合った。発問や板書など授業の手法だけではなく、「より深く理解したい生徒」がどんな思いで授業に参加していたのか、どんな背景がその子にはあるのか等々、学年や教科、経験などの枠を越え、正解を求めずに語り合った。

【あるグループでの語り合い】

担任があげた「より深く理解したい生徒」から2名の生徒について語り合った。普段の授業での様子や支援だけでなく、学校以外での様子などを共有し、その子のよさや可能性を語り合うことができた。

生徒	担任がより深く理解したいと思っていること	語り合った内容
TM 生	自分本位な姿もあるが、友だち思いの面もありステキ。面倒なことから逃げてしまいがち。彼がワクワクする授業ってどんな授業なんだろう。	・人とかかわりが大好きな生徒。 ・地域のクラブ活動で頑張っている。祭り等で地域の人と話をしている姿もある。地域で活躍できることを取り入れたらどうか。 ・勉強ではないところで役割を担わせたらどうか。
NR 生	去年の自分から一転、授業中に教室にいるようになった	・勉強は苦手だが、教室にいるようになった。



が、勉強は嫌い。嫌いでも1時間席についている本人は、どんな思いで授業に参加しているのか。感想や考えを書く時、アラビア語やハングル語で書いてくることがある。担任が読めないことを知っているのに書いてくるのには、本人のメッセージがあるように思える。	・祭りや地域のイベントでは家族の手伝いをよくしている。 ・体を動かすことが好きで、特に器械運動が大好き。 ・勉強はできずとも得意なことをピックアップして、活躍できる場があるといいのではないか。 ・選択肢を与えて、自分のやりたいことができる可能性を示したらいいのではないか。
--	---

語り合いを受けて、二人の生徒へ具体的な支援を行ったところ、少しずつ生徒の変化が見られた。

○TM生・・・学級で参加する文化祭のフリーステージの準備で、学級で誰もできない映像編集を依頼した。TM生は、放課後や休みの日も編集作業に没頭し、撮影班と協力しながら映像を完成させることができた。完成した映像はクラスメイトから絶賛され、その反応に本人も満足そうにしていた。授業に参加できない日もあるが、クリスマス会の運営や選挙の手伝いなど、学級の一員として活躍したい気持ちをもつようになった。

○NR生・・・文化祭のフリーステージへの参加を勧め、得意な器械運動を仲間と共に全校の前で披露することを決めた。何度も技の映像を見ながら楽しんで練習に取り組む姿は、授業の時とは全く違った。居残り届の提出や体育科への物品の借用書の作成なども自分から取り組み、自分の好きなことをとことん学校でできることへの嬉しさが伝わってきた。徐々に自分の思いを伝える姿も増え、リハーサル担当職員と演出について打ち合わせをしたり、片付け担当の先輩に指示を出したりする姿に成長が感じられた。さらに、本番直前に「先生、俺らの発表前のアナウンスで『これから行う技の中に、長野市内で成功した人が数人しかいない技もやる』って付け加えたい」と言ってきた。自分の思いを直接訴えてくることの少ないNR生が、自分の好きなことを存分に楽しむ中で、自分の思いを全校に伝えたくなったのだと思われる。本番は、多少のミスはあったが、全校の脚光を浴び、認められたことに喜んでいた。今は、地域ボランティアにも参加したいと意欲をもち始めている。



(3) 岩川直樹先生からご指導いただいたこと(9月)

【岩川直樹先生からのご助言②子どもの今を学びに生かす】

- ・生徒について記録し、生活背景や過去の経験等の情報を集め、教師間で共有する機会を大切にすること
- ・子どもを変えるのではなく、子どもに應えるために学校や教師自身が変えること
- ・生徒の「now-growing」に答え、教師も共に変化するプロセスが重要であること
- ・その子の特性を活かせる場、普段活動できない生徒が参加できる場を工夫し、「子どもで授業を行う」のではなく、「子どもと共に授業を行う」こと
- ・生徒の問題行動の表面的な対処ではなく、その背景にある内面や関係性を理解し、適切な場や機会を提供すること(生徒の強みを生かす環境づくり)

(4) しなのきファインダーの読み取り研修(10月)

中村広登指導主事から、第1回しなのきファインダーの結果の読み取りのポイントをご指導していただき、その後、グループごとに「より深く理解したい生徒」のしなのきファインダーの結果から、その生徒のことを語り合う場を設定した。

【あるグループでの語り合い】

担任が深く理解したいと思っている生徒の中で、US生について語り合った。

【しなのきファインダーの読み取りのポイント】

- ・生徒の結果と先生たちのその子への見立てのずれに着目すること
- ・数値の高さよりも、その数値の背景に着目すること

生徒	担任がより深く理解したいと思っていること	語り合った内容
US生	それほど目立つ生徒ではないが、級友との関係も良好。冷静に周囲を見ながら、物事を考え、落ち着いて生活をしている。夏休みの課題帳のページが破られ、取り組んでいない状態で提出。心配した担任が話を聞いたところ、「自分でイライラしてやった」と言い、何があったのか具体的なことは口にしなかったことが気になっている。	・友だちとの関係というよりも、家庭で何かあったのではないかな。 ・家族とのかかわりやイライラした気持ちを切り替えるのは比較的に高いのはなぜ？ ・家庭でのかかわりの数値が高い生徒だからこそ、家庭内でのイライラを物(課題帳)にぶつけるしかなかったのではないかな。気持ちの変化があるのではないかな。

		・母親がオンライン授業や英語検定の受験も本人の希望というよりも母親の思いが強い。母親との関係でイライラしていたのかもしれない。 ・自分への自信がないのは、母親の思いが強いからか。
--	--	---

US生の普段の姿や気になる行動を共有し、しなのきファインダーの結果を見合い、気づいたことを語り合う中で、普段のUS生の姿とのちがいが(ギャップ)を感じた。US生の家庭環境も含めて語る中でUS生が、今、家庭(特に母親との関係)に悩んでいるのではないかと、自信のなさも母親のかかわりにあるのではないかと考えられた。

担任は、この語り合いを受けて、生徒相談の時間に、US生と家庭での様子や気持ちの切り替えについて聞いてみることにした。

(5)まとめ

これまでの研究の結果から、子どもの今を感じとる先生に向けて、以下のことを大切にして子どもを見ていこうと考えた。

【子どもの今を感じとる先生のありかた】

- その子の目の前の姿を批判的に捉えたり決めつけたりしないで、まずは共感しよう。
- 「今」の姿の背景として、その子のこれまでの姿(言動・表情・雰囲気)や内面や関係性を理解しよう。
- 独りよがりの子とも理解ではなく、子どものことを先生たちで語り合い、子どもの思いを先生たちで分かち合おう。

9つのウェルビーイング

	前時	今時	前時の結果	今時の結果	100
「自分は自分のままでいいんだ」と思える気もち	—	23			
ワクワク・楽しい・やる気が出る気もち	—	45			
ホッとすると・おちつく・おだやかな気もち	—	66			
誰かやが世話になっている人とうまくいっている	—	78			
おだちとうまくいっている	—	83			
先生や知り合いの人とうまくいっている	—	74			
誰かからうぶくいっている	—	90			
誰かからうぶくいっている	—	68			
自分を大切にしている時間をもっている	—	76			

9つのスキル

	前時	今時	前時の結果	今時の結果	100
うまくいなくても「大丈夫」で乗り越える	—	82			
目標を出してチャレンジする	—	32			
いろいろな方法で問題を解決する	—	65			
ほかの人とよく話し、こまめに人の話を聴く	—	36			
まわりの人の長みや強みを気づく	—	32			
まわりの人のことも自分のことも大切に考える	—	52			
イライラしてもうまく気持ちを切り替える	—	100			
やるべきことに気持ちを集中させる	—	87			
勉強する、との楽しさを見つける	—	100			

3. 「リスペクトするワクワク感にあふれた学校(学び)」に向けた研究の内容

(1)研究授業「伝えよう！松代の魅力」(10月)

子どもの今を感じとり、先生たちで思いを分かち合ったことを、どのように学びに結びつけられればよいか、岩川先生のご指導から振り返った。「子どもで授業を行う」のではなく、「子どもと共に授業を行う」という点から「共に」をキーワードにして、以下の点を取り入れて、2学年の総合的な学習の時間の研究授業を行った。

【「共に」を意識した授業の取り組み】

- その時、その場にいる生徒の思いを感じとり、生徒と共に学びを展開する
 - 指導案にとらわれず、授業者が生徒の思いに寄り添って授業を展開する
- その場にいる先生たちも、目の前の生徒の思いを感じとり、授業者や生徒と共に授業をつくる一員となる
 - 参観者も生徒のことを感じとり、生徒の思いに応えるために、一緒に授業に参加する
 - 座席表を工夫する(前時の様子だけでなく、より深く理解したい生徒も明記する)
- 生徒同士が共に学べるよう、その子の個性や強みを生かした環境を設定する
 - チーム分けを生徒と一緒に考え、企画を考えやすい、話しやすいメンバーを構成する

(2)指導案

①単元名 伝えよう！松代の魅力

②主眼

『エコール・ド・まつしろ』の趣旨を理解し、自分たちがいっしょに活動をしていく体験講座ごと、少人数のグループ分けを行った生徒たちが、倶楽部の方々と一緒にできそうな企画を、相手のことを意識しながら立案をしていくことを通して、それぞれの倶楽部の方々の思いや願いを踏まえながら、松代のよさや魅力を、地域の方々と松代を訪れた方々に伝えられる企画を考えようとしている。

③展開

	学習活動	予想される生徒の発言	教師の支援
導入 (10')		<学習問題> 倶楽部の方たちと一緒に、自分たちができそうな企画は何だろうか？	
	1 「エコール・ド・まつしろ倶楽部」について振り返り、課題を設定する。	・自分たちに何ができそうかな。 ・この倶楽部の体験に参加したことある。 ・いろいろやれそう。	・「エコール・ド・まつしろ」の趣旨を確認しながら、「リスク」での生徒たちの感想をいくつか紹介する。
展開 (30')		<学習課題> 松代のよさや魅力を伝えるために、相手のことを意識した企画を考えよう。	
	2 企画書の立案 3 企画の発表 (体験講座のグループ内で行う)	・自分たちが楽しめないと、いっしょに参加する人も楽しめない。 ・自分たちが楽しければいいではダメだと思う。 ・倶楽部の方に理解してもらえるような内容を考える必要があるかもしれない。 ・大人から幼稚園の子まで、体験できる内容にする必要がある。 ・誰にでもわかりやすい内容にする必要がある。 ・〇〇さんたちの企画、楽しそう。 ・幼稚園や保育園の子たちには難しいかも。 【評価】(主体的な取り組み) ・地域の方々と一緒に、自分たちができる企画を立案し、積極的に社会に参画しようとしている。	・まず、誰に伝えたいかグループ内で考える。 ・企画の立案の際、学年で事前に行ったアンケート結果も参考に促す。 ・企画を考えた理由と、心がけたいことを考える。 ・友達の企画を聞いて、よかった点、気になった点だけでなく、さらにこうするとよいというアイデアもアドバイスするよう促す。
終末 (10')	4 友達からのアドバイスを参考に、自分たちの企画内容の確認をする。	・もう少しわかりやすくした方がよさそう。 ・〇〇さんのアイデアも入れてみよう。 【評価】(思考・判断) ・友達の意見を取り入れながら、課題解決に向けて考えている。	・友達の発表やアドバイスを聞いて、取り入れたいことがあれば、企画を修正するよう促す。

(3)生徒の様子

①T先生の一言に謎が深まる三人(真田紐手織り体験グループA班)

班の中で真田紐の手織り体験をしたことのあるSH生が経験をもとに企画を考えているところにT先生も参加し、「そもそも真田紐って何か?」という素朴な質問を投げかけた。するとNM生中心に「そもそも材料として使う紐を真田紐なのか?真田織みたいな織り方があって、その織り方で織ったものを真田紐なのか?松代でつくるから真田紐なのか?」と悩み始めた。周りにいる先生たちにも質問し始めたNM生は、グループごとの発表場面で自分たちの班で答えが見つからなかった謎を全体に伝えた。聞いた他の生徒からも「100均で買った紐をここで三つ編みしても真田紐っていうのは違うよね」「偽物がいっぱいできちゃう」などの意見が出た。その後、真田紐の手織り体験をしたことのあるY先

②友とのかかわりの中で企画への思いを明らかにしていく二人(真田紐手作り体験グループB班)

企画を考える班を生徒に考えさせたとこ、どの教科の授業においても積極的に発言をしないUS生に対して、仲の良いIK生が一緒になった。普段から一緒にいることの多い二人だったので、US生も安心して自分の考えを述べられるであろうと考えた。

企画の相手を考える場面では、IK生が、家族、特に祖父に伝えたいと話し始めた。しかし、自分たちが真田紐の歴史や成り立ち、材料を知らないことに気づき、まずは地域の方から真田紐の歴史を教えてもらいたいと二人で考えるようになった。そして、学んだ真田紐のよさを伝えたい、後世に伝えるためには大人ではなく、小さい子どもたちに伝えることが大切であることに気付いていった。

伝えたい相手	家族と、小学生
企画の内容	ハンカチを作る。 真田紐を束ねて後世に伝えたい。真田紐の歴史を伝える。 自分たちが何かに作る人ですが、 みんな真田紐の歴史から来た人ですが、 いつまでも真田紐がある人ですが、 真田紐は、みんなからつられていって、 真田紐もみんなの力で、特別なもの、特別な物にしていきたいです。

US 生と IK 生の書いた企画書

③一言も話せなかったMH生(これからの防災を考えようグループ)

MH生は、授業当日にペアの相手が休んでしまったことで、急遽、E 班からA班で企画を考えることになった。防災すごろくを体験したことのあるMH生だったが、A班では自分から企画を提案する姿はほとんどなく、NK生たちの話を聞くだけになってしまった。



(4)生徒の様子から考えたこと

自分が担当する活動を実際に体験したことのある生徒と経験したことがない生徒がいることから、生徒たちだけで松代の良さや魅力を届ける相手や企画を考えることが難しく、話し合いが停滞する班が多く見られた。しかし、参観者である先生たちが、目の前にいる生徒たちに思いを寄せ、生徒の声に応えたり、問い返したりして「共に学ぶ一人」として生徒にかかわったことで、生徒が改めて考え直したり、新たな視点で話し合ったりすることができた。研究授業だからできることかもしれないが、多くの先生たちで生徒たちの今を感じ、生徒と共に学んでいくことで、先生たちの生徒への寄り添いや生徒の思いを感じる居方、教師観そのものが変わっていくのではないかと考えた。また、急な班変更で企画づくりに消極的になってしまった生徒の姿から、状況に応じた支援の難しさを感じた。

(5)岩川直樹先生からご指導いただいたこと(10月)

【岩川直樹先生からのご助言③子どもの今を学びに生かす】

- ・その子の今を感じることは、その子のこれからの歩みを思うことにつながる
- ・子どもに関心を向け教師が変わること、子どもと一緒に変わることが大切である
- ・教師たちで語り合うことで、その子の様々な面が見えてくる。その子のために教師たちが変わろうとする。そうすることで、子どもと共に教師や学校が変わってくる
- ・Education=the very process of living together (共に生きるまさにその過程)
- ・「一人の子どもを育てるには一つの村がいる」
- ・砂場に水を入れて素足で遊んでいる子がいれば、一緒にやってみて、その感触と一緒に味わうような寄り添いを大切にしたい

3. 本時の授業に向けて

(1)本校で大切にしていきたいこと



これまでの研究から、子どもの今を感じとる先生として、目の前にいる生徒に先生たちが関心を寄せること、そして、先生たちみんなで生徒の思いを分かち合うことを本校の土台とする。その土台の上で生徒を変えるのではなく、先生たちが生徒たちと学校生活や授業を通して、共に変わっていくことで本校のめざす、リスペクトするワクワク感にあふれた学校になっていくと考えた。また、先生一人が生徒たちとかかわり、生徒を変えていくのではなく、先生たちみんなで一人の生徒に関心を寄せ、みて、かかわっていくこと、先生たちが生と共に変化していくことを大切にしていきたい。

(2)本時の授業で大切にしていきたいこと(授業で見えていただきたいこと 参観する先生たちと分かち合いたいこと)

当日は、2年1組の総合的な学習の時間、「伝えよう！松代の魅力」の続きの授業を行う。班ごとに作成した企画書をエコー・ド・まつしろ倶楽部の方々(各体験の担当者)に見せ、アドバイスをもらい、松代のよさや魅力を伝える活動を再考していく。

授業の中で、その場にいる先生たち(本校職員)も、活動を考える生徒の思いを感じとり、授業者や生徒と共に授業をつくる一員として授業に参加する。生徒の姿だけでなく、目の前にいる生徒の思いや声を受け、それに応えようとする授業者やその場に先生たちにどんな姿があったのか、生徒や先生たちにどんな変化があったのかを見ていただきたい。様々な立場で本時の授業に参加するみなさんで、生徒たちの学びの一コマを参観すること、立ち会うことの意味を一緒に考えたいと考えている。

子どもの今を感じとる先生とは
～リスペクトするワクワク感にあふれた学校・生徒を目指して～

- 1 期 日 令和7年11月14日（金） 13:00～16:40
- 2 場 所 長野市立松代中学校
- 3 共同研究者 岩川 直樹（埼玉大学 教授）
- 4 日 程
- （1）受付（職員玄関） 12:45～13:00
- （2）開会行事 13:05～13:15
- ①はじめの言葉
- ②主催者挨拶 信濃教育会 研究調査部部长 海沼 敦 様
- ③会場校校長挨拶 長野市立松代中学校長 塩崎 正昭
- ④諸連絡
- ⑤終わりの言葉
- （3）研究発表 13:15～13:30
- （4）公開授業 13:40～14:30
- 单元名「伝えよう！松代の魅力」
- 2年1組 生徒数35名 授業者 涌井 孝治 教諭
- （5）分かち合い
- ①全体で分かち合い 14:40～15:10
- ②参観したグループで分かち合い 15:10～15:40
- ③岩川先生の「あと30センチタイム」 15:40～16:25
- （6）閉会行事 16:30～16:40
- ①はじめの言葉
- ②会場校校長挨拶
- ③諸連絡
- ④終わりの言葉
- 5 会 場 ・授業会場 多目的教室
- ・全体会場 かりがね体育館

長野市立松代中学校



松代中学校の立て看板があります。
立て看板に従ってください。

松代中学校案内図

<順路>

松代インターから車で2～3分です。

- ① 松代インター出口から左折で松代方面へ
- ② 高速道路をくぐり、信号を右折
- ③ 上高相の信号を左折

〒381-1231

長野市松代町松代 207

TEL 026-278-2402